

# 滝沢・漆ヶ久保集落跡

三六災が消した二つの桃源郷

滝沢は大鹿村との境にあった中川村の集落で、滝沢川沿いに7世帯が暮らしていた。三六災害とその後の小渋ダム開発により約300年続いてきた集落がなくなった。

漆ヶ久保は四徳川沿いの桑原地区からさらに東の中川村地籍の山中にあり、数軒の家があったが、昭和30年の初めには漆沢家1世帯のみが生活をしていた。漆ヶ久保も三六災害の折に大きな被害に合い、漆沢家も村を離れた。

当時の集落跡・屋敷跡、屋敷の石垣・水田跡・墓石などの生活遺構が今も山中に残る。



滝沢の生活跡



漆ヶ久保集落跡



滝沢の生活跡



漆ヶ久保集落の墓石



滝沢の生活

漆ヶ久保の生活

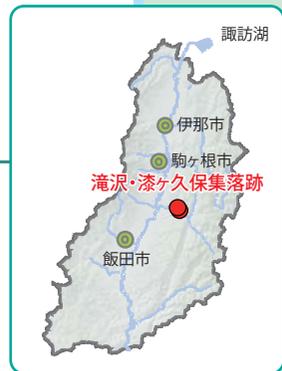
山の斜面はそれほど急ではなく手入れが行き届き、様々な農作物が作られていた。牛、馬、鶏なども飼われ、冬場は炭焼きを行われていた。小さな集落であったが豊かな暮らしであった。江戸時代中期から後期の立派な墓石が残っている。

小学生が片道2時間かけて中川東小学校桑原分校に通わなければいけないほどの山奥であった。アンゴラウサギ、蚕を飼い、炭焼きを行い、シメジも豊富に採れた。家の柱の一部が残り、江戸時代の墓石も残っている。

## information

□ **アクセス**  
(滝沢)  
松川ICから15km  
車→30分

□ **所在地**  
中川村大草桑原



(国土地理院の数値地図50000地図画像)を使用